

2026 UTSSI Kids Sporting School 企画書

生まれつき障害のある子どもが自尊心を育みながら心身ともに成長していくためには、同年代の子どもたちと共に多様な活動に参加し、挑戦や成功体験を重ねていくことが重要です。しかし、手足など身体的特徴のある子どもたちは、障害に対する理解や社会的認知度の低さ、専門人材の不足、補装具や活動選択肢に関する情報不足、さらに機会が都市部に偏在していることなどの要因により、運動やスポーツ活動に参加する機会が十分とはいえない現状があります。

本企画では、障害や身体的特徴を「できない理由」としてではなく、異なる能力として尊重し、多様な身体性が価値として発揮される社会の実現を目指します。その取り組みとして、障害のある子どもたちが安心して身体を動かし、自分の身体の可能性を感じながら活動できる機会を提供します。

具体的には、ブレイクダンスをはじめとしたダンスを通じて身体表現の楽しさを体験できるダンス教室と、学校体育で行われる運動等を中心とした運動教室を開催します。これらの活動を通じて、子どもたちが多様な身体の使い方を学び、「やってみたい」「できた」という成功体験を積み重ねることで、意欲や自己効力感、自尊心の向上につなげていきます。

また、障害のある子どもたちのスポーツ参加を支える環境づくりを目的として、パラスポーツの特性や障害児・者への対応に関する知識や実践を共有するパラスポーツセミナーを開催します。これらの取り組みを通じて、障害のある子どもたちがのびのびと身体活動に取り組める機会を広げるとともに、多様な身体性を尊重する社会の実現に寄与することを目指します。

協力団体（案）：

主催：（株）東京ドームスポーツ／大泉スワロー体育クラブ

主管：東京大学スポーツ先端研究連携研究機構（公財 スポーツ安全協会）

協力：

日本アダプトテッドブレیکن協会、（一社）ハビリスジャパン

後援：依頼中・予定団体

スポーツ庁、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、日本臨床スポーツ医学会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本義肢装具士協会、日本パラスポーツ協会、日本スポーツ・健康産業推進協会、日本フィットネス産業協会、日本トレーニング指導者協会、NSCA Japan、健康運動指導士会

企画1：ダンス教室

企画2：運動教室

企画3：パラスポーツセミナー

企画 I

ダンス教室

～自分に合ったダンスで体を動かそう！～

目的：障害児・者を対象に、ダンスを通して左右非対称を招かない体作りを目指す。

幼い子供達は親子で参加し、新しいダンスの世界とその楽しさを体験する。

・参加する子供たちの身体機能評価も実施し、これとダンスを通して自分自身の運動能力を総合的に把握する。得意なところ、苦手なところを知る。

・子どもたちが動かせる身体の範囲や限度、状態を把握する。

・子どもたちが楽しんで身体を動かすことにより、運動・リハビリテーションの機会にもできる。

営利を目的とした開催ではなく、障害児の身体活動性向上から健全な心身の成長と将来的な QOL 向上を実現できるよう、また地域におけるスポーツや文化活動の場を安定的に実現し、継続性のある事業として提供できる事を目的に開催する。

指導者：日本アダプテッドブレイキン協会（Japan Adapted Breakin Association）

<https://yozigenz.com/jaba>

の協力を得て、障害のある子供達への指導経験のあるダンス講師を招聘

サポートスタッフ：関東医療大学ダンス連盟（今後連携依頼予定）

日程：2026 年

① 4月12日（日）

⑤ 9月13日（日）

⑧ 11月23日

② 5月10日（日）

⑥ 10月11日（日）

（月）：発表会

③ 6月14日（日）

⑦ 11月15日（日）

⑨ 12月13日（日）

④ 7月12日（日）

2027 年

⑩ 1月17日（日）

⑪ 2月21日（日）

時間：13時～16時予定

場所：

- 板橋区小豆沢体育館
<https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-itabashi-azusawa-taiikukan/>
- 文京区総合体育館
https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-bunkyo-sogotaiikukan/?_gl=1%2A1110vpg%2A_ga%2AMjkxODY5NTIzLjE3Njg0ODQINzM.%2A_ga_X05CE64JRW%2AczE3Njg0ODQINzMkzbzEkZzEkdDE3Njg0ODQINzYkajU3JGwwJGgw
- 練馬区中村南スポーツ交流センター
https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-nerima-nakamuraminami/?_gl=1%2A1jhc7ax%2A_ga%2AMjkxODY5NTIzLjE3Njg0ODQINzM.%2A_ga_X05CE64JRW%25
- 流山市キックマンアリーナ
<https://www.shisetsu-tds.jp/chiba-nagareyama-kikkoman-arena/>

対象者：脳性麻痺をはじめ、四肢欠損など様々な障害のある子どもたちやその兄弟・家族や友人（仮）など障害の有無は問わず参加者の対象とする。

ターゲット：3歳以上から20歳程度の障害のある児・者

スタッフ：ダンス指導者 2-4名（大阪から招聘する講師含む）

UTSSI から数名

メディカルスタッフ 1-2名（MD、PT など医療専門職：PT 協会から募集予定）

学生ボランティアスタッフ 5名程度

（関東医療系学生ダンス連盟 UDM: <http://sigmasince1987.com/circle/medical/>）

プログラムに必要な要件：

- ・5歳程度から20歳程度までが楽しめる構成・プログラム
（体力のない子、初心者、車椅子の児、場合によっては重症心身障害児なども楽しめるように）
- ・障害を踏まえたダンス指導スキル
- ・サポートスタッフの障害に対する専門的知識

プログラム：体育館での屋内活動のみで構成する。

その他：

- ・共催・協賛団体の看板はグラウンド・体育館の一部に掲示。
 - ・メディア発信：障害児・者の社会参加の一環としての啓蒙活動として紹介
- パラスポーツの認知度の向上、障害理解の啓発。

サステナブルなパラスポーツ教室のモデルを作ることが目標なので、受講料は徴収する。

将来的な自主事業として成り立つことを目標とする。

また、障害児・者のイベントというよりは障害の有無を問わず楽しんで、ダンススキルを向上させることができる教室を目指す。したがって健常児も参加希望者は積極的に受け入れる。

参加費 1回1000円（会場使用料・保険料込み：予定）

企画 2

運動教室

目的：

- ・障害児を対象に、学校体育の授業で行われる運動を中心に、左右非対称を招かない体作りを目指す。
- ・参加する子供たちの身体機能評価も実施し、これと体操や水泳、鉄棒などを通して自分自身の運動能力を総合的に把握する。得意なところ、苦手なところを知る。
- ・子どもたちが動かせる身体の範囲や限度、状態を把握する。
- ・子どもたちが楽しんで身体を動かすことにより、運動・リハビリテーションの機会にもできる。

対象：手足に特徴のある子ども達やその兄弟・家族や友人（仮）

指導者：大泉スワロー体育クラブも主催となり、障害のある子供達への指導経験のある講師が担当する

プログラム：義肢や補装具を活用した多様な身体の使い方を体験する機会を創出する。

・体操 ・水泳 ・縄跳び ・トランポリン

日程：計20回

① 体操

2026年5月24日、6月21日、9月27日、10月18日、11月8日、11月22日、1月28日（大会）、2027年2月7日、3月7日

② 水泳

2026年6月7日、6月28日（大会）、7月5日、9月6日、2027年3月7日

③ トランポリン

2026年4月26日、10月4日、10月25日、11月15日

④ 縄跳び

2026年12月6日、2027年1月24日

時間：①体操③トランポリン④縄跳び 13時～14時15分、②水泳 14時半～15時45分

場所：大泉スワロー体育クラブ <https://www.ostc.jp/>

ダンス教室同様、サステナブルなパラスポーツ教室のモデルを作ることが目標なので、受講料は徴収。将来的な自主事業として成立する事業計画のモデル・パッケージとしての成立を目指す。

参加費 1回2000円（会場使用料・保険料込み：予定）

企画3

パラスポーツセミナー①

企画1のイベントと併催で前半30分を講演、後半30分は当事者などを中心に現場の声を聞ける質疑応答を中心とした内容とする。その講演後にダンス教室会場の見学を可能とする。

パラスポーツの特性や障害児・者対応の情報共有・提供の場を目指す。

日時：2026年 第一回 7月12日 第二回 10月11日

2027年 第三回 1月17日（予定）

会場：小豆沢体育館 会議室

【テーマ候補】 障害理解シリーズなど（テーマ・キーワードを毎回設け、開催予定）

2024年度のテーマ

「パラスポーツがあたりまえの社会に」

「スポーツ活動の環境を整えていくために必要な障害の理解と合理的配慮とは」

講師：東京大学先端科学技術センター 熊谷晋一郎

「パラスポーツで使用される様々な補装具に関する基礎知識」

日本パラスポーツ学会・日本義肢装具学会理事・大阪大学工学研究科 BE 専攻 准教授・川村義肢(株)開発部 主席技師 松田靖史

「全員を主人公にするダンス指導」 ワークショップ「その実践と対応法」

講師：車椅子ダンサー かんばらけんた、日本アダプテッドブレイキン協会 高橋俊二

「手に障がいがある子どもたちの器械運動の取り組み」

講師：大泉スワロー体育クラブ 立松佳通

「ハンデがあるから面白い」

講師：パラリンピック陸上競技選手 山崎晃裕

2025年度のテーマ

「パラスポーツ実施時の小児も含めた熱中症とその対応について」

講師：東京大学医学部附属病院 リハビリテーション科 藤原清香

「小児義足ユーザーのアクティビティ支援」

講師：東京大学医学部附属病院 リハビリテーション科 小林美香

「誰もがスポーツを楽しめる社会へ」～パラスポーツと理学療法士の視点から～

講師：ナカタコンディショニング 理学療法士 中田綾子

と多岐にわたって実施した。

今年度も、「スポーツ現場で知っていてほしい、障害に対する医学的な知識」をテーマに企画する。

内容：

スポーツ指導者や支援者が知っておくべき基礎的な障害に対する医学的知識をわかりやすく伝えることを目的とする。身体障害には中枢神経性や末梢神経性、麻痺、感覚障害、筋骨格異常など多様な種類があり、それぞれの特性によって運動制限の必要性や支援の方法が異なる。例えば、筋骨格異常は、関節や靭帯、関節包、皮膚など原因が複雑であり、具体的な違いを知ることによって現場での対応や注意すべき点の理解の一助となる。また、見た目ではわかりにくい内部障害（心臓・呼吸器・代謝など）についても触れることで、より安全な運動指導につなげることが可能となると考える。内容は医療専門職でない方にも理解しやすいよう構成し、講義と参加者同士のディスカッション等を交えながら進められるよう企

画する。パラスポーツに関わるすべての人にとって、実践的かつ日常の現場に活かせる学びの機会となることを目指す。

パラスポーツセミナー②

本セミナーは、障害のある子どもたちの身体活動の機会を創出し、健全な心身の成長と将来的な QOL（生活の質）の向上を目指す取り組みの一環として開催する。

本企画においては、まずダンス教室を通じて運動機会を創出し、さらに今後、継続的な活動を支える「地域資源としてのスポーツ施設」の可能性を視野に入れることも重要と考えている。

障害児・者が安心して通える場を増やすためには、民間・公共のスポーツ施設側の理解と受け入れ態勢の構築が不可欠であると考えます。

本セミナーでは、現場の実例を通じて理解を深め、課題を共有し、今後の受け入れ体制構築に向けた実践的なヒントを得る機会とする。

目的：

- ・障害児・者が一般のスポーツ施設においてトレーニングや活動を行える環境整備を推進する。
- ・スポーツ施設の関係者が、障害児・者のトレーニング実態やニーズを理解する機会を提供する。
- ・民間・公共スポーツ施設の役割を再確認し、地域における継続的な受け皿の形成を支援する。
- ・施設運営者と現場指導者が、現状の課題やその解決策について共に考える場とする。

対象：

- ・民間・公共スポーツ施設の運営者（経営者、施設責任者）
- ・スポーツ施設の現場スタッフ（インストラクター、トレーナー等）
- ・自治体のスポーツ・福祉・教育担当職員
- ・障害者支援団体、教育・医療関係者 など

内容：

- ・障害児・者の身体活動と QOL の関係
- ・ダンスやスポーツがもたらす心理的・社会的効果
- ・実際に障害児・者を受け入れているスポーツ施設の事例紹介
- ・実際のトレーニングや指導風景の映像紹介
- ・パネルディスカッション／グループワーク：
 - ・スポーツ施設での受け入れにおける課題と解決策を検討
 - ・受け入れを進めるために今、何ができるか？合理的配慮とは？
 - ・他施設・行政との連携について考える

開催日程：3 回／年（予定）

時間帯：平日夕方（予定）

会場：東京大学本郷キャンパス内（医学図書館を予定）

2025 年度開催内容

「障害の有無に関わらないスポーツやトレーニング環境の実現とフィットネス向上に向けて
～如何にして民間／公共スポーツ・フィットネス施設で障害者の利用を促進していくか～」

#1 登壇者

- 山崎晃裕（順天堂大学、2025 年世界パラ陸上競技選手権やり投げ 7 位）

- 檜崎教子（福岡教育大学教育学部教授、日本トレーニング指導者協会認定 上級トレーニング指導者、シドニーオリンピック 柔道女子 52kg 級 銀メダル）
- 緒方徹（日本パラスポーツ協会医学委員会委員長、東京大学医学部附属病院リハビリテーション科教授、東京大学スポーツ先端科学連携研究機構 副機構長）
- 吉田正昭（（一社）日本フィットネス産業協会 専務理事、（株）ルネサンス アドバイザー（元代表取締役社長）、（公社）日本スポーツ健康産業推進協会 理事）

司会：

- 藤原清香（東京大学医学部附属病院リハビリテーション科 准教授／東京大学スポーツ先端科学連携研究機構 准教授（兼担））

#2 登壇者

- 湯浅剛（2024 年 IFBB 男子ワールドカップ車いすボディビル優勝、車いすバスケットボール「NO EXCUSE」所属）
- 近藤賢司（トレーニングセンターサンプル代表）
- 鳥居昭久（東京保健医療専門職大学 教授、元パラリンピック日本選手団トレーナー）

司会：

- 平松竜司（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授／東京大学スポーツ先端科学連携研究機構 准教授（兼担））